なかよくし　進んで学び　やりとげる

キラリ☆加美っ子

令和３年１２月８日
加美小学校だより
発行　校長　梶並裕子

ひさしぶりの保護者参加の参観日が行われました。
11 月 30 日人権参観日と学級懇談会にご参加ありがとうございました

11 月 30 日、新型コロナウィルスが蔓延し、これまで分散型にしたり、廊下からの参観にしたりと、何十年に渡って行ってきた参観日を普通に開催することができませんでしたが、コロナ禍が落ち着いてきて、本当に久しぶりに通常通り開催することができました。通常と言ってもマスクや配慮は欠かせませんが、子ども達はいつになく緊張しているのがわかりました。

人権参観日では、「友達のこと」「障害のある人のこと」「ハンセン病について」など、人としてどう考えるべきか授業をしました。コロナ禍で大人の中にあった差別やネットの問題など、これからの世の中でも、わたしたちは人として、どう生きるかを大人も一緒に考えていかなくてはなりません。

稲田先生の子育て講演会　日々の子育てへのエールをいただきました

保護者アンケートから

「子育てでも仕事上でも、腹をたててしまったりイライラしたりすることが多くあります。お話を聞いて子ども達に過度な要求をしてしまっているのだと反省しました。毎日が必死です。できないことを起こったり責めたり焦って関わっても子どもも自分も苦しくなるだけだなと感じています。」

「子どもに対する思いが強い分、こうしてほしいと口うるさく言ってしまいます。私自身少し思考を変えて、できることに目をむけ、子どもの存在自体に感謝し子どもが心地良くなる声かけをしていきたいと思います。」

「私がポジティブにいる事が子どもと良い関係でいれると思いました。」

３年生リーダーを体験！初の「挑戦科」で活躍しました！

「6 年生の大変さわかりました。」「3 年生のリーダーかっこよかった。」

12 月 2 日、1 年生～3 年生の初の「挑戦科」の授業が行われました。「挑戦科」は昨年より本校で行っている授業です。今年度は昨年度に引き続き、４年生～6 年生では、「水問題」「難民問題」「食料問題」「教育問題」など縦割りグループで SDGｓの課題を学んでいます。1 年生から６年生までクラス替えのない単学級で学習している子どもたちにとって、他の学年の人と意見交換をしたり、話し合いをうまく進めていったりすることは大きな学びになっています。

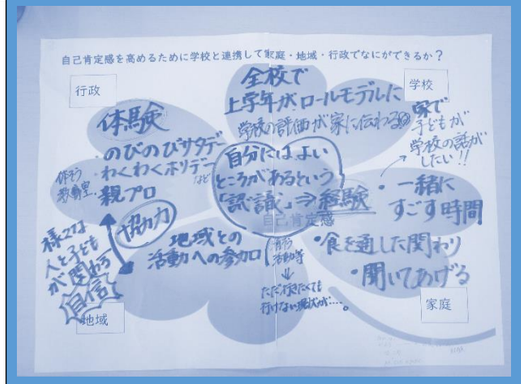
今回は初めて下学年で行いました。１年生、２年生、３年生が縦割りグループになり、3 年生をリーダーにして「色鉛筆わすれちゃった」というグループワークトレーニングをしました。「リーダーは何をしたらいいか」をあらかじめ学んだ３年生が、ばらばらに別れて３人～４人のグループの話し合いを運営しました。しっかりはっきり説明したり、下級生に発言をうながしたり、困っていたら助けたりする姿は、とても頼もしいものでした。1 年生から「おもしろかった。」「３年生かっこよかった」と言われ、おもわず「めっちゃ、うれしい。」と笑顔になる一幕もありました。

これからの加美小学校　地域とともに　11 月 12 日　学校運営協議会で活発なご意見をいただきました。

今回の熟議のテーマは、「子ども達の自己肯定感を高めるために、地域・保護者・学校はメンタルにどうはたらきかけることができるか」

今年で 2 年目になる加美小学校コミュニティスクール（学校運営協議会）ですが、コロナ禍で委員の皆様にはこれまでなかなか十分な時間をとってお話をしてもらうことができませんでした。ようやく今回はお時間をとることができました。

加美地区には本当に子ども達のことを心から大事に思っていてくださる方々がたくさんいます。本当は今回もみなさんに実況中継したいと思うほど、加美小学校の児童を我が子のように気遣ってくださる委員の皆様から貴重なご意見をたくさんいただきました。PTA 役員の方も参加してくださり、有意義な時間になりました。

今回は柴本会長が「学校が今一番気になっていることを言ってほしい。それをどうしたらよいか真剣に話し合いましょう」と言ってくださり、「子ども達のメンタルの弱さをどう変えていけばいいのか、学校でもいろいろ取組をしているが、家庭や地域でも力を貸していただきたい」と私からお願いして、今回の熟議のテーマが決まりました。

この少ない誌面ではお伝えできないことがあるので、また改めて誌面にまとめますが、日本全国で昔ながらの「ふるさと」が互いに希薄になりつつある中、加美地域のみなさんの心温まるお取組や保護者の方の率直なご意見をいただくことができました。